

念願叶い電気工事士に!
「次は施工管理技士」



1級めざし頑張る!

下川 茉央 さん

MAO SHIMOKAWA #19

株式会社 京谷電気
工事部 工務課



DATA

青森県立むつ工業高等学校(電気科)在学中、国家資格・第二種電気工事士の資格を取得するとともに、国家資格・第一種電気工事士および2級電気工事施工管理技術検定(学科)に合格。高校卒業と同時に2019年3月入社。現在、第一種電気工事士免許交付と2級電気工事施工管理技術検定(実地)の受験をめざし、日々実務経験を積み重ねている。ジュニアマイスター顕彰特別表彰ゴールド認定。東通村出身。

株式会社 京谷電気

青森県八戸市北白山台2丁目8-23
tel.0178-27-6303
<http://kyoyadenki.co.jp/company/>



若く19歳、若き女性技術者誕生

ほとんどが男性中心の電気工事業界に、一人の若き女性技術者が誕生しました。2019年3月に青森県立むつ工業高校電気科を卒業し、京谷電気(八戸市、高橋誠社長)に入社したばかりの下川茉央さんです。若干19歳。

高校在学中、電気工事士の第二種免状を取得するとともに、その第一種、および電気工事施工管理技士の2級学科試験に次々と合格。高校生のうちに挑戦できる国家資格の課題をすべてクリアして卒業したという、優秀で勉強熱心な下川さん。憧れの仕事に就いて約半年、一人前の技術者を目指して日々奮闘中です。

「電気工事楽しいけど、お客さんと打ち合わせしながら工程を決めていく先輩の姿を見て、施工管理の仕事ができたらいいな、と思いました。この会社で実務経験を積ませていただいて、1年で受験資格を得られる2級施工管理の実地に合格できたら、次は1級も目指したい!」

今後の目標を聞かれ、言葉を選びながら慎重に話すその口調からは、芯の通った凛々さが感じられます。



段ボールで梱包された照明器具を取り出す下川さん

初めての現場が「Y Sアリーナ八戸」

彼女が目指したいという施工管理技士は、発注者との打ち合わせや施工図面の作成、工事の工程や安全・品質管理などを行う「現場監督」の仕事に必要な国家資格。技術者としてより高度な電気工事の知識や、職人さんとのコミュニケーションなどマネジメント能力が求められます。

一方、在学中に合格済みの国家資格、第一種電気工事士についても、5年の実務経験を積みば下川さんに免状が交付されます。この第一種免状があると、自家用電気工作物(最大電力500キロワット未満)の需要設備の電気工事に従事できるようになり、彼女の仕事の幅はさらに広がります。

アイドル好きな普通の女の子が、「初めは興味がなかった」という電気工事業の道をなぜ選んだか。その理由について下川さんは、「進路を本格的に考え出した中学2年生の頃、設備工事の仕事をしていた親戚の影響を受けたから」と振り返ります。

むつ工業高校電気科に進学後、実習などを通して電気工事を学び、資格を取得していくうちに、「この仕事に就きたい!」という思いが強くなっていきました。

そんな下川さんが就職先に選んだのは、在学中に職場見学で訪れたこのとある京谷電気。1946年創業の歴史ある会社で、2019年9月にオープンした屋内スケート場「Y Sアリーナ八戸」のような大型施設の新築工事にも関わるなど、毎年10億円以上の工事を完成させている、県内大手の電気設備会社です。同スケート場が最初の仕事で、先輩に教わりながらダクト加工や配線作業を経験しました。

この日の現場は、彼女にとって3件目となる看護小規模多機能ホームの新築。一般的に、新人の仕事は先輩社員の補佐的な作業から始まるのですが、彼女はすでに、照明器具取り付けの本工事をこなしています。60台ある2階の照明器具は、すべて彼女が取り付けました。



【写真左】小柄ながら、脚立を使って高さ2.7mの天井に照明器具を取り付ける下川さん【同右】分電盤の接続作業もすっかりお手の物

工事完成にやりがい「ずっと続けたい」

「最初に取り付け方を教えたら、あとは全部一人で。(新人の割に)結構、気持ち強いですよ。現場で下川さんの指導にあたる先輩工事士、藤田紘史さんも、そのメンタルの強さに太鼓判を押します。

身長142センチと小柄ながら、重さ約5kgの腰袋を身に着け、床から高さ2.7メートルの天井まで脚立を使って照明器具を持ち上げ、電動ドライバーで手際よく照明器具を取り付けていく下川さん。

「新人ならここまでやらないというか、『どうしよう、どうしよう』ってなるんですけど、彼女は負けず嫌いなので、どんな仕事も人一倍努力します」と藤田さん。

「わからないことはちゃんと聞きに来てくれるし、説明したらちゃんとその通りにやってくれます」

女性だからといって甘えることの無い姿勢に、現場のベテランたちも信頼を寄せているようです。

大変だと感じるのは力作業。「男でも重たく感じる」(高橋社長)という重さ10キロ以上の電線[VVFケーブル]を持って階段を上り下りすることもあります。

それでも仕事が楽しい。「自分が取り付けした照明器具が点灯した時、達成感がある。男性ばかりでつらい事もあるけど、それをやりがい、が上回る。将来結婚したとしても、この仕事を長く続けていきたい」



【写真左】先輩工事士の藤田さん(左)に教わりながら、2階の照明器具60台を取り付けた下川さん【同右】高橋社長(右)と下川さん

ひとことメッセージ

株式会社京谷電気 代表取締役社長

高橋 誠

下川さんは、当社初の女性技術者です。学生時代から資格取得に対して努力家だった彼女は、職場見学や面接の時も「電気工事士になりたい」と自分の夢を語っていました。こうして入社してもらい、日々、電気工事を学ぶ彼女に話を聞くと、いつも「現場が楽しい!」と言ってくれます。仕事を楽しくしてくれるのは嬉しいですし、これからもそういう気持ちで働いてもらえるよう、職場環境を整えていきます。そして、下川さんの希望通り、今後は施工管理技士として育成を考えています。当社では、専門知識のない人に対しても、入社後に会社が費用を負担して、講習会への参加や資格取得を応援しています。これからは電気科以外にも枠を広げ、下川さんに続く女性技術者の採用と育成に向け取り組んでいきたいと思っています。

